



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

第2号

2021年5月7日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

緒川小学校の Special Partner

4月23日、緒川小学校に行ってきました。「すごい」の一言です。以前より「オープンスクール」だということは聞いていましたが、その他にも「オープン・タイム」「ESD」「SDGs」「ユネスコスクール」など、特色盛りだくさんの学校でした。大学で勉強している皆さんにとっても、とても興味のそそられるワードではないでしょうか。

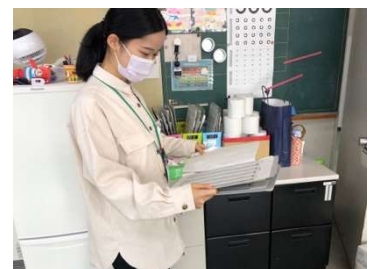
そんな魅力溢れる緒川小学校で活動している水野SP。「すごい」です。水野SPも森岡小の牧野SP同様、養護教諭を目指しています。緒川小の養護教諭の石田先生が、開口一番、「彼女はもういつでも養護教諭ができます！すでにチーム緒川の一員です！」とおっしゃられました。大学2年生の頃から活動しているそうです。「どうしたらいいか迷う時は、すぐに先生に相談をします。」と話していました。丁寧な“報・連・相”の積み重ねが信頼関係を作ります。水野SPのそうした真摯で誠実な活動に対する想い、そして緒川小の先生方の「SPはチームの一員だ」という意識、双方の想いがピタッと重なっているからこそ、水野SPは「チーム緒川の一員」になり得たのだと思います。

水野SPは、健康診断などがある時は、その日に合わせて活動日を決めることもあると話していました。そんなやり取りが現場の先生と出来るところが、コミュニケーション力の高さを示しています。彼女と話していると、将来の自分の姿を明確に想像しながら活動していることが分かります。目の前の子どもたちを大切にしながらも、将来の自分にどう繋がるのかを考えて活動に取り組んでくれています。それが言葉の端々から伝わってきました。すごいです。心の底から、感心してしまいました。裏面に水野SPが答えてくれたSP活動に対する熱い想いを掲載します。めちゃくちゃ熱いです。ぜひ読んでみてください。こんなSPさんが緒川小にはいるのだと、びっくりしました。

東浦町では、複数の学校でSP活動をすることが可能です。複数校で活動できるボランティアも他の地域ではそうそうないのではないかと思います。現場に出たら、いろいろな学校に行くことはできません。他の先生の授業をゆっくり見る機会もありません。でも、SP活動ならばそれができます。SPさんたちの柔軟な発想、高い意識で、東浦町のSP活動をより上手に使ってもらえたらいいと思います。

それぞれの学校に、それぞれの特色があり、それぞれの想いがあります。いろいろな考え方に触れられることは、このSP活動の一つの醍醐味です。また、自らの足で出掛けることで、新たな出会いもあります。今回紹介した水野SPのような素晴らしい仲間とも知り合うことが出来ます。

これからのSP活動がさらに楽しみになる、そんな一日でした。水野SP、そして、緒川小学校の先生方、ありがとうございました。



水野 SP、SP 活動への熱き想い！！

緒川小では、「まずは何でもやってみよう！」という考えのもとで活動することができます。それが最大の魅力だと思います。

養護教諭が不在のときに、児童が怪我をして来室しました。主訴から問診を進めていき、手当をしましたが、果たしてその対応が正しかったのか不安になるときがあります。実践してみて納得がいかない場合は、すぐに先生方に相談し、アドバイスを求めます。そうすることで、自分の視野が広がり、改善方法を見つけ、次に生かすことができます。また、私の行動に対して先生方は必ず「ありがとう」とおっしゃってくださいます。一言の感謝の言葉がとても温かく、「もっと子どもたちのために！」とボランティアに対する意欲を掻き立ててくださいます。

そして、全ての活動から学ぶものがあります。怪我をした、または、体調が悪くて来室した子どもへの救急処置技術だけでなく、学級担任や保護者への丁寧な報告、その後の経過観察も重要だと学びました。健康相談の際は、児童の言動を表面的に解釈するのではなく、その奥に隠された感情や欲求を汲み取って解決へと向かっています。なぜ汲み取れるのかと考えると、それは日頃から多くの大人の目で子どもたちを観察し、小さなことでも情報を共有しているからだと考えます。その現場を間近で見ているため、子どもたちの小さな SOS に気づけるよう、表情や顔色、姿勢や服装など些細な変化を見逃さないことを念頭に対応しています。

また、防げる怪我であったら、保健指導につなげ、子ども自身が自己の健康を見つめ直すことによって、進んで健康な体づくり努めるよう支援しており、怪我をしてもそれをマイナスに捉えるのではなく、子どもの学びにつなげていました。

健康診断では、効率よくかつ丁寧に行うために、事前準備の大切さ、教員同士での協力と連携が不可欠であることを実感しました。また、結果の集計や整理を実践し、教科書では学びきれない貴重な体験をさせていただきました。学習面では、単に勉強を教えるのではなく、一人一人の生活の実態に即し、個々のニーズに合わせた指導や支援が重要であると学びました。

緒川小へボランティアに行かせていただくたびに、新しい学びがあります。全ての活動に意味があり、子どもたちとのかかわりや教職員・保護者との情報共有・連携などを見たり実践したりすることで、それぞれの立場に立って行動することができます。また、子どもたちが成長していく姿を見ることができ、教職の魅力を見出す場でもあります。

